

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：令和7年9月22日(月) 17:00~18:00

場所：中田記念ホール 脳研究所 旭町総合研究実験棟
(統合脳機能研究センター)6階

光酸素化法によるアミロイドーシス治療



堀 由起子 先生

東京大学大学院薬学系研究科
機能病態学教室 准教授

アミロイドは、タンパク質が異常に凝集し線維状になった構造物である。アミロイドの形成・蓄積は、アミロイドーシスと総称される様々な疾患の原因となる。我々は、東大薬有機合成化学教室（金井求教授）と共同で、アミロイドーシスに対する治療法として光酸素化法を開発してきた。本法は、光によって活性化する低分子化合物を用いて、アミロイドを選択的に酸素修飾（酸素化）する技術である。これまで光酸素化によって、アミロイド蓄積病態を改善できることを明らかにしている。本セミナーでは、これまでに得られた知見を共有し、アミロイドーシスに対する新たな治療法としての光酸素化法の可能性について紹介したい。

アルツハイマー病発症機序における ミクログリアの役割



高鳥 翔 先生

東京大学大学院薬学系研究科
機能病態学教室 助教

アルツハイマー病 (AD) は、アミロイド β ($A\beta$) の蓄積とタウの凝集を病理学的特徴とする神経変性疾患である。近年のゲノムワイド関連解析により、ミクログリアに発現する遺伝子群が AD 発症リスクと強く関連することが明らかとなり、ミクログリアを標的とした治療戦略に注目が集まっている。本発表では、我々が取り組んでいるミクログリア関連分子 TREM2/INPP5D と GPR34 に関する最新の研究成果を紹介し、ミクログリアの関わる病態メカニズムと創薬標的としての可能性について議論する。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：脳研究所 遺伝子機能解析学分野)

